

令和 5 年度 施策評価表

第 2 章 『子どもが大切にされるまち』

まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。
分野別計画・指針	第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第5次所沢市障害者支援計画(障害児福祉計画)、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第2次所沢市教育振興基本計画、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市いじめ防止基本方針

第1節	子ども支援
関係所属	こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども支援」 所沢市は子育て世帯への支援や相談窓口が充実している	525	20.4%	586	22.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度	%	98.35	100	98.33	×	100

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-1-1 子どもの育成支援の充実	こども支援センター(子育て支援)の利用者数	人	85,856	60,000	50,654	×	60,000
2-1-2 子育て家庭への支援の充実	ところっこ子育てサポート事業相談件数(基本型・特定型)	件	872	900	1,137	○	900
2-1-3 地域における子育て支援の充実	ファミリーサポート事業の年間利用件数	件	12,155	17,000	14,261	×	17,000

節の基本方針への取り組み状況
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○こども支援センター子育て支援エリアでは、併設している発達支援エリア等と連携し、相談できる行事や講座の開催を実施し支援した。また、保育幼稚園課と連携し、新たに保健師に相談できる行事を実施し、利用者が専門職に気軽に相談できる場を増やした。</p> <p>○ところっこ子育てサポート事業では、関係機関と連携し、相談者に寄り添った子育てに関する相談や親子支援に係る講座を開催し、情報提供などの支援を行った。</p> <p>○ファミリーサポート事業では、地域において子どもの預かり等の援助を必要とする家庭とのマッチングを行い、前年度よりも約3,000件利用が増加した。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○こども支援センターの利用者満足度については不満・やや不満と回答した方はいなかったが、どちらでもないと回答した方がいたためと考えられる。</p> <p>○こども支援センターの利用者数は、コロナ禍であったことから事業内容の縮小や利用者の自粛による影響と考えられる。</p> <p>○ファミリーサポート事業の利用件数は、コロナ禍であったことから利用会員の自粛による影響と考えられる。</p>

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

○とことろっこ子育てサポート事業については、子育て世代包括支援センターからがもや関係機関と連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図る。

○ファミリーサポート事業の利用件数は増加傾向にあることから、利用会員が援助を必要とした際に利用ができるよう援助会員の確保に努める。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

○こども支援センターの利用者満足度については、更なる満足度の向上を目指し、支援の充実を図る。

○こども支援センターの利用者数については、安心して子どもを遊ばせ、育児不安を解消する場として事業の充実を図る。

○ファミリーサポート事業の周知を引き続き行うとともに、援助会員確保のため、援助会員向けの講習会等の充実を図る。

SDGsへの貢献

レ 1 貧困をなくそう	レ 10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.11	記入者職氏名	こども未来部次長 青木 一圭
-----	---------	--------	----------------

第2節	子ども福祉	
関係所属	こども福祉課、こども支援課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども福祉」 所沢市は子どもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている	391	15.2%	471	18.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(発達支援)の利用者満足度	%	93	100	95.9	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-2-1	障害児支援の充実	こども支援センター(発達支援)の利用者数	人	19,517	22,100	18,570	×	22,300
2-2-2	養育環境に配慮した支援の充実	児童家庭相談の件数	件	844	900	928	○	900

節の基本方針への取り組み状況	
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り	<p>○こども支援センター(発達支援)では、心理士、言語聴覚士、作業療法士の専門職による相談支援、地域支援、障害児通所支援を柱とした取り組みを行った。相談支援では併設する子育て支援エリアや保健センターなど関係機関と連携し、延べ4,242件の相談を行った。地域支援では幼稚園・保育園への巡回相談、支援者や当事者の家族向けのオンライン研修会等を行った。障害児通所支援では児童福祉法に基づく児童発達支援・保育所等訪問支援を行うとともに、保護者の同意のもと就学時に就学先へ支援記録の提供を行った。</p> <p>○児童家庭相談においては、子どもやその家庭に関する様々な相談に対応し、必要に応じて継続的な支援を行った。</p>
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析	<p>○「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、満足度の高い通所支援に対し、利用者の増加により予約の取りづらさや相談間隔等の希望に添えない相談支援の状況のため目標未達成となったものであるが、全体として前年度の満足度94.8%を上回っており、利用者の一定の満足と評価は得られていると考える。</p> <p>○「こども支援センター(発達支援)の利用者数」については、なお残るコロナ禍の影響などにより、前年の利用者数19,667人もわずかに下回る結果となったがものである。</p>

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- こども支援センター(発達支援)の機能がより発揮されるよう、事業内容の見直しを適宜行い改善を図っていく。
- 障害児支援の充実については、医療的ケア児や重症心身障害児の支援体制を整えていく。
- 教育と福祉の連携を進める等、障害児支援の担い手の相互理解を深めていく。
- 児童家庭相談においては、引き続き、電話や窓口、メールで子どもに関する様々な相談に対応し、支援の充実を図る。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 評価指標「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、引き続き職員研修などにより支援の質を向上させるとともに、より円滑に相談支援に繋げることができるよう関係機関と協議していく。
- 事業目標「こども支援センターの利用者数」については、必要な支援を必要とする利用者に届けられるよう、必要に応じWebを活用するなど工夫しながら事業を実施していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.11	記入者職氏名	こども未来部次長 青木 一圭
-----	---------	--------	----------------

第3節	子育て環境	
関係所属	こども政策課、保育幼稚園課、青少年課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子育て環境」 幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している	602	23.4%	533	20.7%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	就学前児童の保育待機児童数	人	26	0	33	×	0

事業目標の達成状況

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-3-1	幼児教育の支援	幼稚園型一時預かり事業の利用者数	人	104,651	105,000	139,728	○	105,000
2-3-2	就学前児童の保育の充実	就学前児童の保育施設の利用者数	人	5,572	6,000	6,036	○	6,000
2-3-3	放課後児童クラブの充実	放課後児童クラブの利用者数	人	2,250	2,458	2,847	○	2,458

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 地域型保育事業所1園の創設による定員の拡大により保育の受入枠を増加させた。
 - 各保育施設に対し、特に保留者の多い低年齢児童の受入枠の拡充を依頼し、4月入園申請の利用調整を行った。
 - 保育を必要とする児童を幼稚園で預かってもらうため、幼稚園型一時預かり事業を実施した。国・県の要綱改正に合わせ、保育体制充実加算の単価を改訂した。
 - 放課後児童クラブについては、現時点でR6年度目標値を達成してはいる(※)が、多くの保留児童が発生している状態である。クラブの狭隘化や大規模化の解消に向け、施設整備や学校施設の活用により定員の拡大を図る。
 - (※)R4年度目標値とR6年度目標値について:第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画(中間見直し後)での量の見込みは、それぞれ3,169人、3,077人となっており、この面からでは目標値を達成できていない。
 - 令和4年2月から実施している処遇改善事業により、放課後児童支援員等の人材確保につなげるとともに、研修やモニタリングを通して、クラブで提供するサービスの向上を図る。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 1歳児の保育需要が多かったため。また受入枠に対して1歳児、2歳児の保育需要が予想以上に多かったことが影響している。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育定員の確保を図る。
- より優先度の高い世帯が保育施設を利用できるよう、公平な利用調整に取り組む。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 保育需要の適正な把握に努め、必要な定員の確保を図る。
- 各保育施設へ、特に保留者の多い低年齢児童の受入枠の拡充を依頼する。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.11	記入者職氏名	こども未来部次長 青木 一圭
-----	---------	--------	----------------

第4節	青少年健全育成	
関係所属	青少年課、社会教育課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「青少年健全育成」 所沢市は青少年が健全に育つ環境が整備されている	398	15.5%	244	9.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	青少年健全育成に関する施策の満足度	%	28.0	30.0	15.5	×	31.0

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-4-1	家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	「三つ葉の提言」の配布数	件	3,353	3,500	3,203	×	3,500
2-4-2	青少年健全育成の支援	児童館利用者数	千人	364.9	現状値以上	220,377	×	現状値以上
2-4-3	青少年の教育及び体験活動の充実	所沢こどもルネサンス事業参加率	%	27.0	29.0	29.31	×	30.0

節の基本方針への取り組み状況	
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青少年に対する様々な体験活動に取り組む団体を支援し、コロナ禍の影響により活動が困難な状況でも規模を縮小しながらも事業を実施した。 ○新型コロナウイルスの影響により中止していた三つ葉の提言の啓発活動である街頭キャンペーンを実施し、例年に近い配布枚数となった。 ○児童館利用者数は、新型コロナ感染症拡大防止の観点から、来館者の制限やイベントの中止などを実施していたため、目標値に対して未達となったが、コロナ禍でも実施できる事業を工夫し、令和3年度と比較して利用者数増となった。（前年度比約110%） <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三つ葉の提言の啓発活動となっている街頭キャンペーンを実施したが、新型コロナウイルスの影響により参加人数を制限したため、目標値が未達成となった。 ○新型コロナウイルスの影響により、通常の児童館運営が出来ず、利用者数が減少してしまった。 ○青少年向けの活動では、感染症対策のため、人数制限等の規模縮小となった事業があり、例年よりも参加者数が減じたため。 	

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 「三つ葉の提言」の普及に向けた啓発活動を実施する。
- 児童館運営を徐々にコロナ以前の状態に戻し、青少年の健全育成の場を確保していくように努める。
- 青少年が地域で様々な体験活動に参加することで成長できるよう、今後も体験活動の充実と活動団体の継続的な支援に努める。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 三つ葉の提言は、街頭キャンペーンだけではなく、普及方法の充実を図っていく。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、児童館利用の制限緩和や中止していた事業の再開を進め、利用者数をコロナ前の水準に戻す。
- コロナ禍での経験を生かし、工夫を重ね、より良い事業を実施していけるよう継続的な団体支援に努める。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.11	記入者職氏名	こども未来部次長 青木 一圭 教育総務部社会教育担当参事 糟谷 苗美
-----	---------	--------	---------------------------------------

第5節	学校教育							
関係所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人		満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「学校教育」 所沢市の小中学校は学びの環境が整備されている		663	25.8%	507	19.7%			
評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	レベル	2	2	2.4	○	2	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-5-1	確かな学力と自立する力の育成	学力向上推進事業における研究委託校数	校	20	現状維持	21	○	現状維持
2-5-2	豊かな心の育成	いじめ解消率の小・中の割合	%	51.2	63.0	52.0	×	65
2-5-3	地域が信頼する学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数	人	5,603	6,110	3,761	×	6,110
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食センターの再整備	—	調査	設計	設計	○	運営
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食における残食率	%	6.3	7	6.1	○	7
2-5-4	健やかな体の育成	体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)	%	87.9	88.8	81.8	×	89.2
2-5-5	学校環境整備の推進	学校トイレの洋式化率	%	35	50	54	○	56
2-5-6	学習環境の整備	市内小中学校における電子黒板の導入割合	%	17	40	20	×	50
2-5-7	教育環境の充実	特色ある私立学校の誘致	—	推進	推進	推進	○	推進
節の基本方針への取り組み状況								
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り								
<p>○私立学校の誘致に関して、開発許可等に係る市所管部署との調整や、地元自治会からの情報収集・調整を行った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響で、児童生徒の運動機会の減少があり、全国的に体力が低下傾向にある。</p> <p>○学校トイレ改修事業は、平成26年度から事業を進め、令和3年度で校舎1系統目が完了したが、引き続き、2系統目の改修を進めるとともに新たに屋内運動場のトイレ改修を行い、令和4年度の洋式化率の目標を達成することができた。</p> <p>○市内小中学校の屋内運動場及び武道場の老朽化した既存照明について、LED化整備のための設計及び工事を行った。</p> <p>○山口中学校既存擁壁改修に伴う近隣建物影響調査(事後調査)の結果、影響が見られた物件の所有者に対し、物件補償を行った。</p> <p>○老朽化した市内中学校校舎内部について、次年度の校舎内部改修(木質化)工事に向けて、南陵中学校の設計業務委託を行った。</p> <p>○市独自の学力調査(ステップアップ調査)を中学生を対象に実施し、その結果を分析することにより、授業改善に生かし、生徒への指導に役立てた。</p> <p>○前年度までの埼玉県学力・学習状況調査の結果を踏まえながら、各校において工夫して学習の支援・指導を行ったことで、目標値を達成することができた。</p> <p>○「学び創造アクティブPLUS」研究委託校では、その趣旨を踏まえ、学力向上のために指導方法の工夫・改善の研究を行った。</p> <p>○児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費スクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図った。</p> <p>○命に係る重大事態の発生を重く受け止め、継続して教職員の研修及び子供の自己肯定感の醸成に重点を置いて取り組んだ。いじめの防止についても、所沢市いじめ防止基本方針及びいじめ対応マニュアルの改訂を行うとともに、いじめの早期発見、早期対応、早期解消に努めた。</p> <p>○各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の特性を活かした、体験的な教育活動を実施した。</p> <p>○電子黒板の導入割合について、文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づき、令和2年度中に、児童生徒1人1台の学習者用コンピュータを整備したところであるが、これにより全ての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置が早急に必要となったことから、計画を変更し、電子黒板ではなく液晶ディスプレイをすべての普通教室及び一部の特別教室に整備を行った。</p>								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析								
<p>○中学校の体力テストでは、生徒のスクリーンタイムの増加やコロナ禍により運動量の低下、運動内容の変化に偏りなどがあり、体力が低下したと考えられる。</p> <p>○いじめの解消率について、今回は事務事業評価で示した解消率と整合性をとるために「52%」として計上しているが、例年通りの計算方法で算出した場合は「70%」となり目標は達成している。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により中止や縮小した学習や行事等の関係で、地域との連携活動等における地域人材の活用も減少した。</p> <p>○電子黒板の代わりに液晶ディスプレイを全ての普通教室及び一部の特別教室に整備したため、評価指標としては未達成であるが、大型提示装置の設置率は100%である。</p>								

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 「(仮称)開智所沢小学校・中等教育学校」の令和6年4月開校に向け、本格的な準備がすすむなか、ひきつづき地元自治会との調整を行うとともに、教材の調達など市所管部署との調整を行う。
- 体力テストを継続することで、生徒の体力向上を図るとともに、学校が指導等にいかせるようにデータを有効活用する。
- メディアとの付き合い方、家読、家庭での役割の推進策として、全校に対して進捗状況調査を実施し、結果を校・園長会等で周知する。
- 児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校の実現とともに、援助を求めることが苦手ないいわゆる「目立たない児童生徒」の声なき声に耳を傾け、微かなサインに気付けるよう、各学校に徹底する。
- 学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」は本年度が取組の最終年度となることから、より一層、心のエネルギープロジェクト、所沢市GIGAスクール構想等とも関連付けながら、学力向上の取組を図っていく。
- 特色ある学校・園づくりを経営の中心的事項とし、地域の特色及び各学校・園の特色を生かし、創造的に生きる子どもたちの育成を図っていく。
- 整備されている大型提示装置の効果的な活用を推進する。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 生徒の体力向上や目標の達成に向け、体力テストの結果を分析し、成果と課題を踏まえた保健体育の授業を推進していく。
- 建築後40年以上経過し、老朽化が進む小中学校について、「所沢市公共施設長寿命化計画」に基づき、築後80年以上使用することを目的として、長寿命化改修を進める。
- 引き続き、校舎2系統目と屋内運動場の学校トイレ改修事業を進める。
- 二酸化炭素の排出削減及び維持管理費の縮減等を図ることにより、ゼロカーボンシティの実現に寄与するため、小中学校校舎及び屋内運動場の照明LED化や学校の屋上に太陽光発電設備の設置を進める。
- 教員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員が連携して相談活動を行うことで、子どもの発するSOSを迅速に受け止め、問題の未然防止、早期発見、早期対応を充実させる。
- 令和5年度より順次スタートしている学校運営協議会制度や、特色ある学校づくり支援事業等を活用して、学校・家庭・地域が一体となって子供たちへ支援・指導を行っていくことで、より一層地域と共にある学校づくりを進めていく。
- 各学校における地域の環境や人材を生かす「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、様々な授業実施の可能性について研究していく。
- すでに大型提示装置の設置率としては100%である。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.11	記入者職氏名	経営企画部次長 柳田 晃芳 教育総務部次長 池田 淳 学校教育部次長 櫻井 誠 学校教育部学校教育担当参事 吉川 誠 学校教育部教育センター担当参事 中村 啓
-----	---------	--------	---